



令和5年12月3日付

R5学友会だより No5

岩手学習センター学友会発行

「2023年学生研修旅行」特集

～震災遺構といわて TSUNAMI メモリアル等から災害
の事実と防災を学びました～ 🚌 R396 🚌

10月18日4年ぶりの研修旅行で陸前高田に日帰り旅行を楽しみました。語り部さんの説明を聞きながら、復興施設を案内していただきました。

西崎滋学習センター所長と職員3名、そして学生12人を含めて16人が参加しました。

・複合型コミュニティ施設「まちの縁側」で写真撮影

この建物は世界的建築家の隈研吾氏が設計し、日本を代表するブランド「ミナ・ペルホネン」の皆川明氏が内装を手掛けました。地元気仙杉を贅沢に用いた気仙大工の見事な技と温もり溢れるファブリックの融合が心地よい施設です。屋上には小さな壇状の広場があり、周囲を一望することができました。



・陸前高田市東日本大震災追悼施設

刻銘碑には、津波の犠牲になった市民や市内で亡くなった人々のうち遺族の意向を踏まえ、1709人(竣工時点)の方々の御名前を刻んだ。小屋組の1/3は被災松を利用し、気仙大工の特徴である持ち送りの技術を利用して形成しています。



・奇跡の一本松保存プロジェクト

約7万本と言われる高田松原もほとんどが流されてしまい、その中で唯一耐え残ったのが奇跡の一本松です。津波に耐えて奇跡的に残った一本松でしたが、海水により深刻なダメージを受け、平成24年5月に枯死が確認されたため、市民のみならず全世界の人々に復興のシンボルとして親しまれてきた一本松を、今後も後世に受け継いでいくために、モニュメントとして保存整備しました。

・ホテルキャピタル1000で昼食

おまかせランチ(刺身付き和定食)生ビールを注文の人も。



・東日本大震災津波伝承館

この伝承館は、先人の英知に学び、東日本大震災津波の事実と教訓を世界中の人々と共有し、自然災害に強い社会を一緒に実現することを目指し、東日本大震災津波を乗り越えて進む姿を、支援への感謝とともに発信する施設です



・複合商業施設アバッセ(あばっせ)

アバッセとはこの地方の方言で「一緒に行きましょう」という意味で、たくさんの人々が互いに誘い合い、訪れ笑顔の集う場所になってほしいという想いから命名された。

